

沢本番！

東北 飯豊 玉川大又沢

栗原 他

【日時】 2011年8月13（土）～16日（火）

【メンバー】 L栗原、藤岡、田邊

8/13(土)晴れ 飯豊山荘～小次郎淵沢

昨夜は敗者の宿と呼ばれる道の駅・関川を避けて、道の駅・おぐにに泊まった。国道113号を少し戻って、国道260号をひたすら進むと終点が飯豊山荘先の駐車場である。そこからダイクラ尾根に向かう林道を進むとスター地点の吊り橋手前の二俣に到着。今日は天気が安定して気温も高いので絶好の泳ぎ日和である。

出合いはゴーロが続くがすぐにゴルジュとなる。腹まで水に浸かってへつたりしながらゴルジュをどんどん進む。水量は平水かそれよりも少ないように感じられる。しばらくすると15メートルはあるだろう奇岩の石柱を目にする。ここからが一つ目のゴルジュ帯の始まりである

早速、泳ぎも交えての遡行となる。程なくすると、魚止め滝 8mが現れる。ここは左岸から小さく巻く。降りたところからちょっと進むと千本峰沢が合流。ここで小休止とする。昨夜はあまり睡眠時間が取れなかったが水に入ると眠さも吹っ飛ぶ。

さらにゴルジュ帯を進むと沢が右に曲がって滝が豪快に落ちている。釜を回りこんで右岸のかぶり気味の岩場をザイルを使ってクリユキが突破してくれた。通常はこの手前



から大きく巻いてしまうのであろう。狭いゴルジュに入ったところで、ここからが本番である。右岸をへつって進み。空身で降りてから更に水に浸かりながら進むと白く泡立って落ちる 4m滝が現れた。ここはさすがにチャレンジする気はないので左岸に移って、スラブを小さく巻いた。こういったゴルジュは最初から巻いてしまうのではこのような沢に来た意味がない。行けるところはあくまでこだわらなければ！

次のゴルジュ帯は左岸から巻き気味に岩の段差を進む。一旦、降りなければならぬが、下は深い淵なので5m程度を一気に飛び込んでから泳ぎ最後は右岸の壁をへつって突破。

程なくするとデトミズキ沢が左岸から入ってくる。相変わらず水に腰まで浸かりながらどんどん進んでいくと小次郎淵沢が現れた。そろそろいい時間なので今日はここまでとして、右岸の高台にツエルトを張った。(田邊記)



5m飛び込んで泳ぐ

8/14(日)晴れ 小次郎淵沢～1,230m二俣BP

歩き始めてすぐに巨大な岩が横たわる。しばらくゴーロと浅い淵を行き、屈曲地点の大きな岩を過ぎるとゴルジュが始まる。淵を持った小滝は左側をトラバースして荷揚げをし、そのさきの大きな溝状のゴルジュは右岸側を歩いてゆくことができた。しばらくゴーロを行き、いりみずき沢を分けると淵と小滝が続く。2条8mの滝を越えた後は、えっちらおっちらと大きな岩が連なるゴーロ帯を歩いてゆくとようやく大岩沢に出会う。その先も簡単に越えられる滝と小淵以外は川原歩きが続く。

本社ノ沢の先からは淵と小滝が出てくる。3mの滝はワンポイントで荷揚げをする。2段10m滝は淵の右側から水流下へ空荷で行き、栗原さんがお助けを引いて登る。滝上もあまり安定しておらず、お助けを繋いで荷揚げをする。そのさきは両岸険しい草付きでずっと向こうには冷気を吐く大きなスノーブリッジが横たわっている。16:00近いので突っ込むわけにもゆかず泊まり場を求めるが、水面20cm程度の狭い川原があるのみ。どうしようかと困っていると、田邊さんが10mほど崖を登ったところに絶好の台地を探してきてくれた。酔っ払っても大丈夫なように、お助けを2本セットして川原で焚き火を起こす。(藤岡記)



滝の右側のツルツルの岩を登る。



泊り場から見える大きな雪渓。明日はどうなることやら。

8/15 (月) 晴れときどき曇り BP～本山小屋

雪渓が心配で早めに出ようと思っていたが、ちょっとのんびりモードで6:30出発する。

歩きだしてすぐ、ゴルジュの2m滝が現れ、その先に見えるのは天場からも見えた雪渓。2m滝がちょっと小難しそうだったので、私と藤岡さんは、少し戻って雪渓ごと巻きに入ることを提案するが、田邊さんが突破してしまった。仕方なしに、藤岡さんと私もお助けをもらってそれに続く。雪渓に近づくと、昨日はかかっていたブリッジが、夜中のうちに一部崩れ落ちていた。崩れた雪渓を乗り越えつつ、先を伺うが、その



先の雪渓も不安定な様子だ。ここは左のスラブに乗り移って、スラブをトラバースして沢に戻る。しかしその先の滝は登れず、右から高巻きに入って、12mの懸垂で再び沢に戻った。その先の5m滝を左から越えると、御沢との出会いになる。ここまで結構時間がかかってしまった。「この先は難しい滝はないでしょ?」と田邊さんは言うが、どうしてどうして、雪渓が核心だ。次の雪渓は左脇をすり抜ける。白く輝く岩床を過ぎると、正面には再び雪渓が見えたが、本流は右折しており、雪渓をかわすことが出来た。10m滝をショルダーで抜け、日の当たる所で小休止とするも、上から冷気が漂ってくる。果たして、上には長い雪渓があった。雪渓に乗り上がるが、そのすぐ先で、右が大きくえぐれて



ており、繋がっているのは左のわずかな部分。もはや私は逃げ腰で、再び高巻きを提唱するが、田邊さんは「ザイルを付けて通過すれば大丈夫だよ」のたまう。どう考えても厚みは50cmとなく、ここを通過するのは嫌で、空身でザイルを付け、一旦左から雪渓を下りて、ボロボロの左の壁を登ってスラブをトラバース、あちらの雪渓がつながっている部分までたどり着いた。田邊さんらは雪渓の上をザイル確保

で通過すると言う。藤岡さんがセルフビレーを取ろうとして、雪渓にバイルを打ち込んだら、「ドスン」と地響きのような音がして、雪渓が崩壊したのかとかなりビビってしまった。雪渓は崩壊こそしなかったものの、雪渓の上では振動がもろ伝わった様で、流石の田邊さんもビビった様子。それでもザックを全てピストンした後、田邊さんと藤岡さんは薄い雪渓を這って登ってきた。崩壊しなくて良かった～。念のため、藤岡さんが



そのまま雪渓上をもう1ピッチザイルを伸ばして、ここならまず崩壊はないだろうと思われる地点でビレイとなる。ここが今日の一番の核心だったろう。その上の雪渓は300mほ



どあったろうか、雪渓が終わる部分は右からすんなり降りられ、その上は源頭の雰囲気となる。左に入る沢を見過ごし、詰めは少々藪こぎとなるが、無事、登山道へと飛び出した。当初はその日中に飯豊山荘に下りる事も考えていたが、既にそんな気はなく、その日は本山小屋に泊る事に決定。宿泊者もそれほど多くないということで、今日はツェルトでなく小屋泊まりとした。その夜はかなり風が吹き

荒れていたもので、これは正解だったようだ。本山小屋の個性的なオヤジさんと、偶然ばったり再会した元会員の小池さんとを交え、賑やかな、和やかな夕べが更けていった。
(栗原記)

8/16 (火) 雨のち曇り 本山小屋～飯豊山荘

図らずも、下山日に雨！真夏に7時間コースの登山道を下りる身としては、恵みの雨である。分かってはいたが、下山道は長く、最後の急な下りでは、登山道歩きに少々飽きが出ていた田邊さんと私は駆け下るように下り、藤岡さんはゆっくりと下りてきて、大又沢と桧山沢との出合に到着した。そこからはのんびりと、夏の山行を振り返りながら、駐車場に戻った。(栗原記)

【グレード】4級上

【地形図】長者原・飯豊山

【行程】8/13 飯豊山荘先の駐車場(7:40)～つり橋(8:30)～千本峰沢(12:20)～でとみずき沢(15:20)～小次郎淵沢BP(16:30)

8/14 BP(7:05)～いりみずき沢(8:55)～大岩沢(10:48)～本社ノ沢(12:25)～1,230m付近BP(16:00)

8/15 BP(6:30)～御沢出合(9:00)～登山道(13:25)～本山小屋(13:40)

8/16 小屋(6:45)～飯豊山(7:00)～つり橋(12:30)～駐車場(13:30)



2011/8/13-16 玉川大又沢
栗原L.田邊、藤岡(作図)

